

Brown Bag Seminar

No. 047

オンライン
録画期間限定公開
(Zoom)
登録はこちら



2022 4.27 (水) 12:10 ~ 12:50

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_oxzSg6ALTnCd_RTgXHBX9g

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

高等教育の国際化における「憧れ」の考察

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

野中 ちさと 准教授

九州大学 留学生センター



2017年5月、米国ハワイ大学マノア校で博士号(教育学)を取得し、2018年4月、九州大学留学生センター准教授に着任しました。現在、短期留学受入プログラムである Japan in Today's World (通称 JTWプログラム)の教員コーディネーターを務めています。主に、トランスナショナルな教育現場での言語、人種、民族、国家(国民)、社会階級、ジェンダーに関わるアイデンティティ形成について研究を行っています。成果はブックチャプター(Houghton & Bouchard, 2020; Phan & Ngoc, 2020; Chang & Gomes, 2021)や学術誌 (JALT, 2019; Research in Comparative and International Education, 2020; Asian Studies Review, 2021)などで発表しています。また2018年9月、初著書である Transcending Self and Other Through Akogare [Desire]: The English Language and the Internationalization of Higher Education in Japan(意識:「憧れ」を通じたアイデンティティ形成: 日本における英語教育と高等教育国際化)を出版しました。

日本では 1980 年代から政府主導で大学の国際化政策が進められ、2019 年には「留学生 30 万人計画」が前倒しで達成されました。留学生数などの数値目標に注目が集まる一方で、国際化の現場の課題は見過ごされる傾向にあります。例えば、経済的負担、言語・文化の壁、進路選択などは、アウトバウンド・インバウンド留学生に共通の悩みですが、今後の政策にこれら現場の声を反映させるためには議論が不可欠です。その第一歩として、本プレゼンテーションでは、国際化によってどのようなことが現場で起こっているのか、私の研究からデータや分析結果を紹介します。なお、大学の国際化を新しい視点から捉える目的で、データ分析には「憧れ」というフレームワークを使用しています。このプレゼンテーションが大学内の様々な立場の皆さんへ、国際化への当事者意識を醸成するきっかけになれば幸いです。

Key Words

高等教育の国際化
日本
憧れ
アイデンティティ